

編集・発行責任者: 木下耕一 〒157-0066 東京都世田谷区成城 8-24-1 - A-201  
Fax&Tel 03-3482-5257 / E-Mail: kino-coh1@amy.hi-ho.ne.jp

『私たちは何でかたつむりのボラなのか』を語ったのが、この文集です。基本的にボラや親達が、うんどう会に対するそれがそれの思いを自由に書き綴ったものですが、最初から最後まで読み通して見ると、「かたつむりの魅力」というか、多くのボラを惹きつけて止まないかたつむりの本質が、理解できてくるように思いました。

特に、『みんなまとめて座談会』の「ナーナーで語られる実行委員たちの発言には、かたつむりという枠を超えて、「ボランティアっていいたい何なのだろうか?」あるいは、「仲間とボラの関係性」と「つよいな問題について、鋭い洞察を私に示してくれました。』

例えば、このうんどう会を発案した小山さんは、自分とかたつむりとの関係を『ジャスト・ファンみたいだ』な、それだけでいいんだ』と言っています。かたつむりのファンだから九年間も続いてきた。これってボラの在り方としてとても大切な事を私達に教えてくれているのではないでしょうか? 何かをしてあげる』のではなく、一人のファンとして共に歩むそこにはボランティアの本質があるように思いました。

私が、かたつむりの本格的なファンとなつたのは、一九九一年一月手話サークルたんぽぽで花田さんと仲間達をお招きした講演会の時からですから、うんどう会は、その一年半前にスタートし、大勢のボラ達の心を虜にしていった訳です。

他にも、『何でこんなに時間を費やすんだろう』つてくらい時間費やして、その年に考え方られる一番良い方法を見つけ出してやる』いかに実行委員の内輪だけで終わらないか』など、高松さん(黄めぐろ手話の会代表だつたなあ)の発言にも、たいへん勉強させられました。

これから私がかたつむりと関わっていく上で教科書となりそうな文集です。(五百円・めざす会発行)

西村さん(西村さん)は、先天的に耳が聞こえず幼少期に手話を学んだ五十歳代の男性で、「父」「川」「テレビ」などを意味する手話を見せ、陽電子放射断層撮影装置(PET)で脳の働きを調べた。その結果、大脳の両側部にある聴覚連合野と呼ばれる部分が活性化した。これに対し、手話をしていない人の姿を見せるとき、映像を処理する視覚連合野だけが反応した。聴覚連合野は話し言葉を処理する領域とされ、これがなどで障害を起こすと耳で聞いた言葉は理解できなくなる。耳の聞こえる人が手話を覚えた場合や文字を見たときには視覚野だけが反応し、聴覚連合野は活性化しない。これらから、西村さんは、耳の聞こえない人の脳には、視覚野に入った手話の内容を聴覚連合野に送る新たな情報処理ルートができるとみていく。

# かたつむりを語るかたつむりの魅力

新聞スクランブル  
01/4 読売

先天的聴覚障害者、脳聴覚領域で手話理解

1月24日(日)立川ろう学校 カたつむり・新年もちつき交流会 もち米募集中!